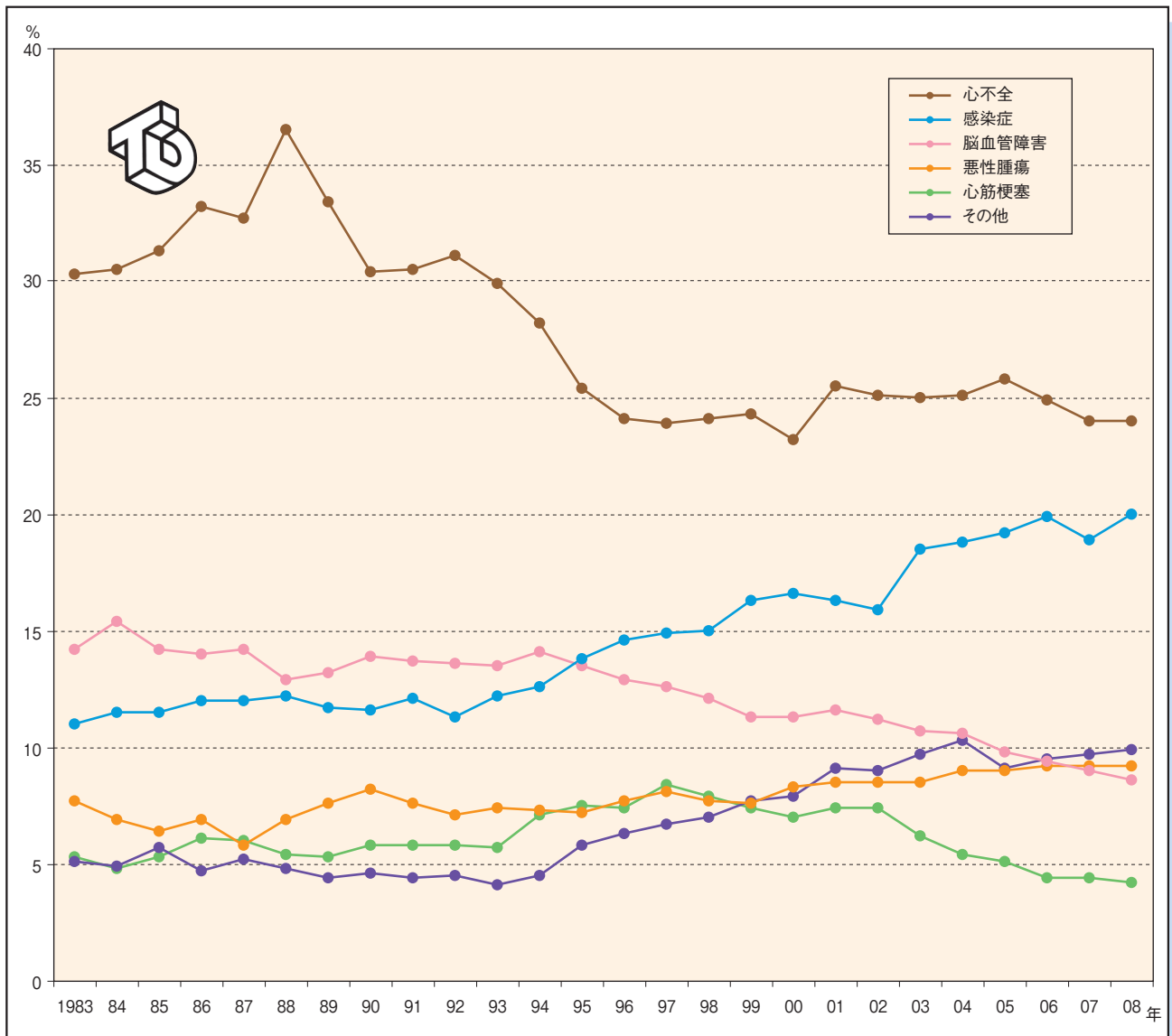


5) 死亡原因

(4) 年別死亡原因の推移 (図表19)



患者調査による集計

解説

死亡原因の第一位はあいかわらず心不全であるが、2008年は24.0%で前年と同じ割合であった。エリスロポエチンが市販され貧血が改善するとともに心不全による死亡は減少し、1996年以降は現在まで24～25%程度で推移している。感染症は2008年では20.0%となり、1992年以降徐々にその割合が増加傾向にある。脳血管障害は1994年以降着実に減少し、2008年では8.6%まで減少した。心筋梗塞も1997年の8.4%をピークとして漸減し、2008年には4.2%となった。悪性腫瘍は9.2%で前年と同様である。